

(様式2)

2019年度吉田・飯塚・長瀬基金調査研究事業実績報告書

報告日 令和 2年 4月 4日

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

会 長 長 瀬 清 様

下記のとおり報告します。

(フリガナ) 団体名又は 代表者氏名	ホクセイガクエンダイガク ハタ リョウスケ 北星学園大学 畑 亮輔		
住 所			
電話番号		ファックス	
調査研究課題	地方部における福祉人材確保に向けた調査研究 ～アクションリサーチを用いて～		
実施期間	平成31年 6月 1日～令和 2年 3月 31日		
研 究 員	氏 名	所 属	
	代表者 畑 亮輔 研究員 山下 浩紀 越石 全	北星学園大学 社会福祉学部 日本医療大学 生涯学習センター 札幌医学技術福祉歯科専門学校	
目 的	近年、地方部の社会福祉に関する各機関・法人においては、社会福祉士をはじめとする各種福祉人材を確保することが難しくなっている。とりわけ北海道では、養成施設が札幌等都心部に集中しており、学生らの多くが都市部（札幌近郊・旭川等）への就職意向をもっているため、地方部の各種機関・法人がこれらの新卒生を採用することが困難である。そこで本調査研究では、地方部の地域（法人・行政・住民）と協働して現地滞在型フィールドワークを実施し、学生らの地方部への就職意向の変化と関連する要因について明らかにしたうえで、今後の地方部における福祉人材確保の指針と養成校における教育の在り方について提言することを目的とする。		

記載上の留意事項

- 1 「目的」、「実施方法」、「結果の概要」は、各々300字程度にまとめて記述する。
- 2 その他参考事項については、今後、更に継続して研究が必要な場合に記載する。

実施方法	本調査研究は、学生らとフィールドワーク（以下、FW）を実施する市町村を対象に3つのフェーズに分けて実施した。 フェーズ①では、社会福祉学系の学生に対する地方部への就職意向に関する量的調査の実施とFWを実施する市町村への説明と合意の形成、プログラム作成に取り組んだ。この結果、新得町と美幌町でフィールドワークを実施することとなった。 フェーズ②では、作成したプログラムに基づいて、新得町（参加学生：3名）、美幌町（参加学生：5名）で現地滞在型FWを実施した。 フェーズ③ではFW実施後の参加学生への事後調査を実施地域へのフィードバックを実施した。そしてこれらの結果も踏まえて、学生らの地方部における就職意向に関する調査報告書を作成した。
結果の概要	本調査研究の結果として、以下のことが明らかとなった。 まず学生対象の地方部への就職意向に関するアンケート調査から、主に1～3年次までの段階では約半数が地方部への就職を希望する可能性があることが示された。 そして現地滞在型FWを、新得町と美幌町で実施することができ、それぞれ3名と5名の学生が参加した（各2泊3日）。参加学生のほとんどは、FW前に新得町・美幌町には行ったこと・住んだことはなかったが、FWを通してその地域に親近感を持つようになり、FW後もその町のニュースや特産品が目につくようになったとの感想を持つに至った。 最後にFWを受け入れた新得町・美幌町の感想として、これまで学生らが町に訪れることがあまりなかったため、大きな刺激になったこと、福祉人材確保に向けた取り組みをしたいと考えていたがアイデアがなかったため参考になったとのことだった。
効 果	まず学生対象の地方部への就職意向に関するアンケート調査から、地方部における福祉人材確保では、就職活動を行う4年次生ではなく1年次～3年次の学生を対象に早期から取り組みを行うことの重要性が示された。 またFW実施の成果として、参加学生が当該地域に親近感を持つようになることが示された。アンケート結果から、多くの学生が縁のある地域での就職を希望することが示されているため、FW参加という縁は将来的に就職に結びつくことが期待できるものと言える。 そしてFW実施に際しては参加学生の確保が大きな課題となるが、福祉現場が養成校と協働することでこの課題に対処できることが示された。 地方部にも福祉人材が輩出される・就職していくためにも、福祉現場と養成校が協働することの効果が示されたと考える。
そ の 他 参 考 事 項	特にありません。